

多賀工業会 東京支部会報

2024年5月第27号



< 横須賀・荒崎公園 >

茨城大学工学部同窓会・多賀工業会東京支部

“温故知新”、自問、自悶、・・・ その行く先は？

支部長 佐藤 将彦（昭 43 学子）



多賀工業会東京支部の皆様には、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。
日頃より支部の運営にご理解・ご支援を賜り、心からお礼申し上げます。

昨年、「同窓の集い」を4期ぶりに、「復活再開」させるため、「コロナを乗り越えて」をテーマにして挙行致しました。お陰様で各位のご協力・支援をもちまして最低限のことはできたかと胸を撫でおろしたのが実情です。

同会は、2019（令和元）年に開催して以降、コロナ禍により、1昨年度の本部との合同総会（当支部40周年記念）を含め、中止のやむなきを余儀なくされて以来でした。まさにコロナ危機ともいえる3年間でした。

改めて、関係各位に御礼申し上げます。

コロナや経年推移で衰退しつつある、この「同窓の集い」を如何にせんと心配してスタートしましたことを思い出します。まずは、円滑に最低限のことができればなど。一方、懇親会中心にした内容にして新メニューも盛り込むなどしました。初参加者にも期待しました。結果的に参加者の16%の8人が初参加者でした。

近々、当支部もご多分に漏れず、社会構造・現象に連動して、年々、年会費納入者減少、会員の高齢化と活動参加者の固定化が進み、ここ6年連続、低水準で推移しており、収支は黒字で財政状況は維持してきたものの、コロナ禍で追い打ちをかけられ、支部活動は衰退してしまったことは否めません。結果的にシュリンクしてしまいました。この動向に歯止めをかけるべく、ここ1、2年は皆様と共に活動をしていきたいと思っている次第です。

これまで、先輩諸氏が営々とやってこられたこの活動を、後輩に新しい形で引き継いでいくために、分断などすることなく、「古きを訊ねて新しきを知る」の諺にあるようにこの方針でやっていくことを、「同窓の集い」のご挨拶に述べました。ここ1、2年は体制・パワーの底上げを図りつつ、ウィズコロナでの活動を模索し、コロナ前レベルに質的に復活させていければと思っています。

昨年来、各分野で取りざたされている「ChatGPT」の基本ロジック？はこの「古きを訊ねて新しきを知る」、「温故知新」ではありませんか？このことも「同窓の集い」で参加の皆様にご投げかけました。如何でしょうか、この方針でやりたいと思っています、皆様の一層のご協力・支援をお願いする次第です。

そして、繰り返しますが、前号で「つながる、^{たがびと}多賀人」のタイトルで、私たち同窓の縁を大切にし、卒業後の「居場所」の一つとして是非、支部活動に参加していただきたいと発信しました。改めて、各位に「つないでいく」ことを訴求したいです、「帰属意識」に訴えたいです。そして、コロナ後の「新しい常識」の支部をコロナ前の活動水準にまずは戻し、一層の楽しめる会になるようにと。

1 昨年の「アンケート分析・提言タスクフォース」の提言などの中での、特に支部「ホームページ」の課題や、「同窓の集い」の充実に絞って、幹事会及び一般会員の皆様の力を借りたいです。

当支部入会はもちろんのこと、幹事会・同好会活動（女子会あり）、及び事務局活動などを手伝っていただくありがたいです。門戸は四方八方開いており、特に若い方たちの力を借りたいと、幹事会・ホームページなどで勧誘など呼びかけています。前々号でも「お願い事」としてご挨拶にて発信し、昨年度も地道に関連活動をしてきて、芽は出てきつつあります。入会1年目で幹事会にも名をつられて活動している方も出てきました！

引続き、多賀工業会本部とは賛助会員へのアプローチの会員増活動で連携し、近隣支部の動向もウオッチしながら、進めていくつもりであります。是非、皆様のご協力・支援の程宜しく申し上げます。
最後に、支部会員の皆様の益々の活躍と、ご健勝を祈念申し上げます。



水戸・偕楽園風景（昭和40年頃）



日立・成沢 吼洋寮・寮祭正門（昭和42年頃）

2024 年 第 27 号 目次

挨拶	“温故知新”、自問、自悶、・・・ その行く先は？	佐藤 将彦	1
報告	第 27 号目次、表紙写真説明	事務局	2
	2024(令和 6)年度「同窓の集い」のご案内	事務局	3
	2024 年度東京支部第 44 回総会議案	事務局	4
	2023 年度東京支部会計（決算）報告	佐藤 将彦	5
	2024 年度東京支部会計（予算）（案）	佐藤 将彦	6
	2023 年度(第 43 回)「同窓の集い」報告	事務局	7
	2023 年度(第 43 回)「同窓の集い」出席者一覧	事務局	8
	2023 年度(第 43 回)「同窓の集い」写真集	事務局	9
随筆	山に魅せられて	白石 道彦	10
	『I don't Noh(能)！』	加藤 清	11
	核融合用超電導マグネットの開発	吉田 清	12
	AI と茨城大学	田中 秀樹	13
	就職して 15 年を振り返って	西脇 一樹	14
同好会活動	囲碁部	田中 栄太郎	15
	ゴルフ部	佐藤 将彦	16
	写真部	小林 渡	17
	テニス部	村上 宗久	19
会則	多賀工業会東京支部会則	事務局	20
お知らせ	HP 編集室より	張 立業	21
	編集後記	小澤 喜宏	21
	2023 年度年会費納入者・寄付者名簿	佐藤 将彦	22
協賛広告	(株)エルブズ、(有)いすゞ電機工業所、大協印刷(株)		裏表紙

表紙の写真：＜横須賀・荒崎公園＞ 撮影地：横須賀市・荒崎公園（2023 年 12 月）

小林 渡（昭 38 学電）

三浦半島の西海岸に位置する荒崎公園は「かながわ景勝 50 選」に選定されており、凹凸の特異な地形の岩石の上に松が自生し、奇岩青松の海岸に波しぶきが白く碎ける様は見事な色の調和を見せ、その景観にはすばらしいものがあります。

本写真は 12 月 5 日午前 10 頃、快晴、奇岩に数羽のウミウ、周辺に漁船、釣り船、後方にヨット、チャンスと見て思い切って岩場に近づき、望遠レンズで撮影しました。

2024（令和6）年度多賀工業会東京支部

第44回「同窓の集い」ご案内

1. 日 時 2024（令和6）年6月15日（土）午後0時30分から

2. 場 所 アルカディア市ヶ谷（右図参照）
東京都千代田区九段北 4-2-25
電話 03-3261-9921（代表）

電車でのアクセス方法

JR 中央線（各駅停車） 市ヶ谷駅から
徒歩3分

地下鉄 有楽町線・南北線 市ヶ谷駅
（A1-1）出口から徒歩2分

地下鉄 都営新宿線 市ヶ谷駅（A1-
1・A4）出口から徒歩2分



3. 会 費 8,000 円（当日受付にて申し受けます）

なお、50歳未満の初参加の方（日立本部から補助がある為）、また、女子の方は4,000円とします。

4. 次 第 第1部 第44回東京支部総会 午後0時30分～午後1時

第2部 生成AI「Chat GPT」まわりの話

第3部 懇親会 午後1時30分～午後3時30分

（時間は都合により、変更になる場合があります）

5. 写真展 「同窓の集い」会場内に展示します。

[一般会員の方からの出展を歓迎します。展示の都合上、事前に写真部連絡窓口（18ページ参照）の小林 渡までメールで連絡下さい。]

6. お願い (1) 出欠のご返事は5月26日（日）までに、同封の「ハガキ」にてお願いし
ます（事務の都合上、締切5月26日を厳守願います）。

(2) 総会での議案は、書面議決とさせて頂きたく、出欠と同じ「ハガキ」にて
賛否の記入をお願いします。

(3) 出席連絡後、変更で欠席となる場合は、6月8日（土）までに連絡をお願い
します。それ以降の欠席には会費のキャンセル料を頂くこととなります。

(4) 出欠にかかわらず、お手数でも同封のゆうちょ銀行・郵便局「払込取扱票」
にて年会費2,000円を払い込みいただけるようお願い申し上げます。

7. お問い合わせ先

佐藤 将彦（昭43 学子）

TEL：090-8819-7305

E-Mail：mke-sato@mud.biglobe.ne.jp

2024年度 多賀工業会東京支部 第44回 総会議案(書面議決)

下記議案を、支部会則第5章第10条により、書面議決を行なわせていただきます。

1号議案 2023年度事業報告並びに2024年度計画

(1) 2023年度事業報告は下記の通りです。

- ・1月6日、支部長名「年頭のご挨拶」年賀状発送（対象者164名）
- ・2月25日 定例幹事会開催（幹事12名出席、その他1名）
- ・3月31日、「本部・賛助会員への入会勧誘」文書発送（対象者31名）
- ・4月15日、第26号会報作成・発送（作成：450部、うち対象者390部発送）
- ・4月15日、埼玉県支部総会に参加（出席：佐藤支部長 写真展：写真部）
- ・6月17日、「同窓の集い」を開催（於 アルカディア市ヶ谷、テーマ：コロナを乗り越えて）、51名参加（来賓5名、会員46名）
- ・7月1日、本部理事会に出席（小林一副会長、佐藤理事）
- ・7月7日、日立総合支部総会に出席（飯塚副幹事長）
- ・10月2日、「同窓の集い」活性化及び、「HP」改善の2チーム編成、活動開始
- ・11月4日、こうがく祭に参加
（更新した支部紹介パネルの掲示、写真出展：写真部、企業（職場）説明懇談会：太田幹事、西脇幹事）
- ・11月25日、定例幹事会開催（幹事12名出席）
- ・各同好会の活動報告は、本会報27号の15～19ページに掲載
- ・その他活動につきましては、本会報5ページの会計(決算)報告書の摘要欄にも記載

(2) 2024年度計画は下記の通りです。

- ・1月初旬、支部長名年賀状発送（1月13日済）
- ・2月24日、定例幹事会を開催（幹事10名）
- ・3月下旬、「本部・賛助会員への入会勧誘」文、発送
- ・4月15日、第27号会報を作成・発行予定（450部作成）
- ・6月15日、「同窓の集い」（於 アルカディア市ヶ谷）を開催予定（参加人数目標：60名）
- ・6月30日、本部理事会、その他5支部総会に順次出席予定
- ・11月23日、定例幹事会を開催予定
- ・各同好会の活動計画は、本会報27号の15～19ページに掲載
- ・その他活動につきましては、本会報6ページの会計(予算)（案）の摘要欄に記載

2号議案 2023年会計(決算)報告並びに2024年度会計(予算)(案)

本会報27号5ページの会計(決算)報告、及び6ページの会計(予算)(案)を参照してください。

なお、支部会則第6章第16条により、総会における詳細な報告は省略予定です。

2023年度 多賀工業会 東京支部 会計（決算）報告

2023年1月1日～2023年12月31日

収入の部

(単位：円)

費 目	予 算	実 績	予 算 差	摘 要
年会費	280,000	300,000	20,000	150口(100名) 前年比10口増
本部援助金	88,200	88,200	0	
同窓の集い会費他	490,000	430,330	-59,670	「同窓の集い」4年振りに開催も目標参加者数(60人)下回る
広告料	45,000	45,000	0	3件(大協印刷・いすゞ電機工業所・ジュンホーム)
寄付・利息	50,000	50,002	2	寄付(50,000円) 利息(2円)
収入の部 計	953,200	913,532	-39,668	
繰越金	1,142,282	1,142,282	0	
合 計	2,095,482	2,055,814	-39,668	

支出の部

費 目	予 算	実 績	予 算 差	摘 要
同窓の集い会費	430,000	401,988	-28,012	参加者実数 51名
総会場・懇親会費	410,000	381,879	-28,121	目標参加数比減に伴う支出減
その他諸費用	20,000	20,109	109	
会報費	279,560	285,301	5,741	A4版24頁全カラー：450部 作成
印刷会社発注費	269,560	271,881	2,321	印刷費(170,500円)、発送費その他(101,381円)
編集雑費	10,000	13,420	3,420	
会議費	35,000	26,437	-8,563	
交通費	30,000	30,416	416	幹事会、事務局会議各2回他、予定通りの実行回復
本部・支部総会参加交通費	10,000	3,878	-6,122	予定3支部総会中止に伴う減
一般交通費	20,000	26,538	6,538	
交流費	130,000	113,544	-16,456	
本部・支部総会参加会費	50,000	20,000	-30,000	埼玉支部、日立総合支部総会に参列
同好会援助	60,000	40,000	-20,000	囲碁部、ゴルフ部、写真部、テニス部の4部
雑費	20,000	53,544	33,544	
振込み費	20,000	14,906	-5,094	
支出の部 計	924,560	872,592	-51,968	
繰越金	1,170,922	1,183,222	12,300	三菱UFJ 311,697円 ゆうちょ銀 770,335円 現金 101,190円
合 計	2,095,482	2,055,814	-39,668	

以上の通り、報告致します。
2024年 1月25日

会計幹事 佐藤 将彦 (昭43学子) 印
(実押印省略、以下同じ)
会計副幹事 西脇 一樹 (平21学都シ) 印

監査の結果、上記に相違ないことを認めます。
2024年 2月8日

会計監事 田中栄太郎 (昭40学化) 印
会計監事 青野 潔 (昭41学化) 印

2024年度 多賀工業会 東京支部 会計（予算）（案）

2024年1月1日～2024年12月31日

収入の部

(単位：円)

費目	予算	前年度実績差	摘要
年会費	300,000	0	150口（前年度実績参考）
本部援助金	88,200	0	前年度同額
同窓の集い会費	490,000	59,670	60名
広告料	45,000	0	前年度と同様（3件）
寄付・利息	50,000	-2	前年度予算並み
収入の部計	973,200	59,668	
繰越金	1,183,222	40,940	
合計	2,156,422	100,608	

支出の部

費目	予算	前年度実績差	摘要
同窓の集い会費	450,000	48,012	前年度若干増（前年度と同じ会場だが、多少の改善点盛り込む）
総会場・懇親会費	430,000	48,121	60名
その他諸費用	20,000	-109	
会報費	286,705	1,404	前年度踏襲（A4版・24頁以下・全カラー；450部 作成）
印刷会社発注費	276,705	4,824	印刷費（170,500円）、発送費その他（106,205円）
編集雑費	10,000	-3,420	
会議費	35,000	8,563	
交通費	30,000	-416	
本部・支部総会参加交通費	10,000	6,122	5支部総会に参加予定
一般交通費	20,000	-6,538	
交流費	130,000	16,456	
本部・支部総会参加会費	50,000	30,000	5支部総会に参加予定
同好会援助	60,000	20,000	5同好会・女子会
雑費	20,000	-33,544	
振込み費	20,000	5,094	前年度実績並み
支出の部計	951,705	79,113	
繰越金	1,204,717	21,495	
合計	2,156,422	100,608	



北浅川（八王子市）のヌシ
黒と白、2羽のサギ

2023 年度 (第 43 回) 「同窓の集い」報告

東京支部「同窓の集い」を 2023 (令和 5) 年 6 月 17 日 (土) にアルカディア市ヶ谷にて、「コロナを乗り越えて」のテーマで開催致しました。杉田龍二多賀工業会会長はじめ、各支部 (千葉県、埼玉、水戸勝田、日立総合) 代表の皆様をお迎えし、出席者は 4 年ぶりの開催であったにも関わらず 51 名を数えました。今回の運営は事務局 (飯塚特命チーム) 及び、幹事が勤めました。コロナ渦を乗り越えて御出席頂き、また支部活動活性化等のアンケート・収録にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

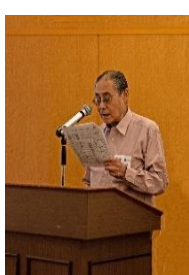
<受付風景>



◇第一部：2023 年度 (第 43 回) 東京支部総会

(12:30~12:45、6F 阿蘇の間)

司会は太田悦子幹事 (昭 60 学電) が担当しました。始めに、亡くなられた会員に黙祷を捧げました。次に、佐藤将彦支部長 (昭 43 学子) から挨拶、続いて御来賓紹介あり、飯塚英一副幹事長 (昭 46 学電) から議案表決結果報告がありました。



<司会太田幹事> <佐藤支部長挨拶> <飯塚副幹事長報告>

◇第二部：杉田会長ご挨拶及び「工学部の今」紹介

(12:45~13:05 6F 阿蘇の間)

ご来賓の杉田龍二多賀工業会会長 (昭 49 学子) から御挨拶を戴き、続きましてスライド数十枚を使い「工学部の今」についての紹介がありました。



「近年工学部の人気落ち受験生集めが課題になっており、入試倍率も農学部 2.3 倍、工学部 1.6 倍となっている。1 つの県に総合大学が 2 つあるのは茨城県だけであり筑波大と比較されてしまう」等々、また、卒業生を扱った話題映画「Winny」のお話も反響を呼びました。限られた時間のなかでの講演、改めて御礼申し上げます。

◇第三部：懇親会 (13:15~15:00、6F 阿蘇の間)

小林一顧問兼副支部 (昭 38 学機) 長の開会挨拶及び乾杯で懇親会が始まりました。今回、「初参加の 8 名の紹介」があり簡単な挨拶を頂きました (太田幹事より、ウエルカムのメッセージあり)。出席者は 9 テーブルに 7~8 人ずつ座り、ソーシャルディスタンスを確保しながら大いに飲み、かつ食べながら歓談しました。

不揃い気味な「校歌・寮歌斉唱」の後、山崎慎一郎功労特別会員 (昭 31 学原) の「中締め」で閉会となりました。アンケート「皆様の声」は、せわしい中 17 名の方から頂きました。改めて御礼申し上げます。なお、一部テーブルでの「皆様の声」の「収録」については、装置の不良で録音できず、開示できないことをこの場をお借りして陳謝致します。ご対応を頂きました方々、ありがとうございました。



<小林顧問乾杯挨拶>



<山崎様中締め挨拶>

◇写真展：(12:30~15:00、6F 阿蘇の間廊下)

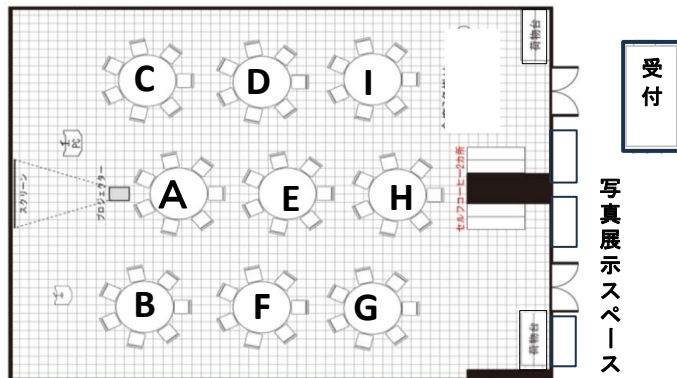
写真部メンバーの力作を 15 枚ほど、展示しました。中には著名な写真展で賞を取った作品もあり、見学者の興味を大いにそそるものばかりでした。



2023年度(第43回)「同窓の集い」出席者一覧(卒年順・敬称略)

(来賓)

No.	氏名	卒年/学科	備考	テーブル
1	杉田 龍二	(S49 電子)	多賀工業会 会長	A
2	富田 宣吉	(S37 工化)	千葉県支部 支部長	A
3	高橋 伸二	(S41 機械)	埼玉支部 支部長	A
4	天野慶次郎	(S56 機械)	水戸勝田支部 副幹事長	A
5	小沼 淳志	(S41 工化)	日立綜合支部 副支部長	A



会場：6階「阿蘇」

(東京支部会員)

No.	氏名	卒年/学科	備考	テーブル
1	山崎 慎一郎	(S31 原動)	功労特別会員 囲基部、写真部、山遊会	B
2	上月 秀俊	(S36 機械)	顧問 ゴルフ部	B
3	小林 一	(S38 機械)	顧問、副支部長 本部副会長、ゴルフ部	A
4	駒場 方輝	(S38 機械)	功労特別会員 ゴルフ部	C
5	小林 渡	(S38 電気)	幹事 写真部部长	D
6	佐々木 登喜夫	(S38 電気)		D
7	寺内 賢一	(S38 電気)		D
8	大塚 進	(S38 工化)		D
9	白石 道彦	(S38 工化)	幹事 囲基部、写真部、山遊会	D
10	高木 二郎	(S38 工化)	幹事	D
11	矢嶋 國男	(S38 精密)	功労特別会員 テニス部	B
12	磯部 亮	(S38 精密)	幹事	B
13	田中 栄太郎	(S40 工化)	会計監事 囲基部部長、写真部	G
14	大泉 雅靖	(S40 精密)	功労特別会員 ゴルフ部	G
15	青野 潔	(S41 工化)	会計監事 山遊会会長	G
16	橋川 隆夫	(S41 工化)		G
17	藤沼 隆夫	(S43 機械)		H
18	佐藤 将彦	(S43 電子)	支部長、幹事長、会計幹事、 本部理事、ゴルフ部部长	C
19	小滝 麟太郎	(S45 電気)		G
20	伊藤 茂	(S45 精密)		G
21	飯塚 英一	(S46 電気)	副幹事長 名簿編集室長	H
22	五十嵐 喜良	(S47 電子)		H
23	鈴木 幹夫	(S48 院電子)	幹事	H

No.	氏名	卒年/学科	備考	テーブル
24	村上 宗久	(S48 機械)	幹事 テニス部部长	H
25	駒板 俊樹	(S50 院化学)		E
26	加藤 清	(S50 院精密)		E
27	岸添 義彦	(S50 精密)		E
28	池畑 隆	(S52 電子)	初参加	I
29	武藤 和望	(S52 院金属)	幹事	I
30	小澤 喜宏	(S53 電子)	幹事、会報編集室長 ゴルフ部	E
31	加藤 邦治	(S53 電子)		E
32	西部 俊憲	(S53 情報)		E
33	中根 茂樹	(S54 機械)	初参加	F
34	川村 澄	(S54 院電子)	幹事 HP副編集室長	I
35	丸島 國義	(S55 院電気)	幹事	H
36	照沼 幸一	(S56 電子)	初参加	F
37	松本 勝己	(S57 機械)		F
38	太田 悦子	(S60 電気)	幹事 女子会会長	F
39	鈴木 葉子	(S62 工化)	幹事 女子会副会長	I
40	大西 孝明	(S62 情報)		I
41	跡部 裕人	(H21 機械)	初参加	C
42	松嶋 克仁	(H21 知能シ)	初参加	C
43	西脇 一樹	(H21 都市シ)	幹事、初参加	F
44	堀江 和也	(H22 院都市シ)	初参加	C
45	張 立業 <small>リギョウ</small>	(H24 院情報)	幹事 HP編集室長、ゴルフ部	B
46	趙 亮 <small>リョウ</small>	(H24 情報)	初参加	B

2023年度(第43回)「同窓の集い」写真集



<御来賓の皆さん>



<Eテーブルの皆さん>



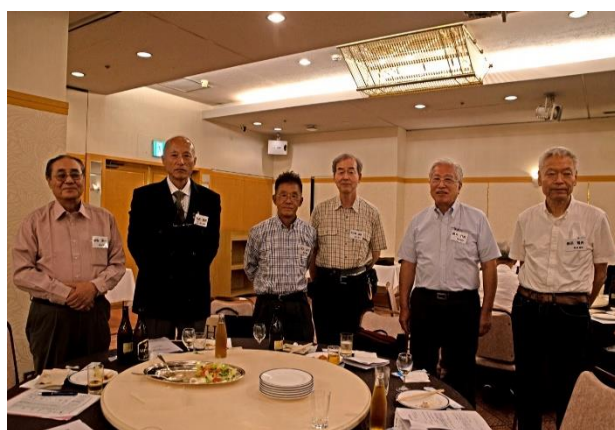
<Bテーブルの皆さん>



<Hテーブルの皆さん>



<Cテーブルの皆さん>



<Fテーブルの皆さん>



<Dテーブルの皆さん>

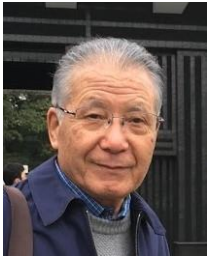


<Iテーブルの皆さん>

山に魅せられて

白石 道彦(昭38学化)

1. はじめに



齢を重ねて85年余。登山が我が人生に彩を与えてくれたことに疑いはない。今や“人生100年時代”とか。可能な限り登山を続け、QOLの維持、向上に努めたいと思う今日この頃である。

2. 学生時代

我が登山歴は1959年の春、茨大入学と同時に山岳部に入部し、GWの谷川岳合宿への参加が出発点である。爾来卒業までの4年間、山岳部の一員として北アルプスを始め、南ア、八ヶ岳等の縦走、合宿&岩登りを春～秋にかけて繰り返す“山男”の端くれであった。

厳しい登山に堪えて、名峰の頂に立った時や崖壁を登り切った時の感動と開放感の下界では得られない体験であり、ここで培われた体力と精神力がその後の人生に弾みをつけてくれたと言える。



1959年5月、登山人生の出発点、谷川岳での新人訓練

3. サラリーマン時代

卒業と同時に入社した大日本インキ化学工業(現DIC)勤務時は、30代から米国を始めとする海外出張及び駐在生活で日本を離れる期間が長かったこともあり、北アなどの本格的な登山からは離れ、丹沢や秩父の山々など、比較的近場の日帰り登山を楽しむ程度で過ごしてきた。

4. 現役リタイア後

2002年に64歳で全ての仕事から解放された後は、マンション管理組合の理事長や日本語ボランティア教室の運営等、奉仕活動に専念しつつも、“昔取った杵

柄”で、再び登山精神が蘇り、昔からの親友などに声を掛け、近場の日帰り登山も然ることながら、泊りがけのややハードな登山にも挑戦し始めた。

その代表的なのが、2009年夏の兼子八郎氏(昭38電・故人)との富士登山、2010年夏の小室哲夫氏(昭36金)との剣岳・立山縦走、2013年夏の矢部功一氏(昭38化学・故人)との常念山脈縦走、2019年夏の富士登山(親子3代)、2023年夏の唐松岳登山(単独)等である。親友の兼子、矢部両氏に先立たれたのは痛恨の極みであるが、彼らの分も頑張る積りで登山を続けたい。



81歳で息子と孫たちの親子3代での富士登山

ここ2年ほどは、茨大山岳部OB会の年中行事である春の谷川岳麓での合宿及び夏の白馬山麓での合宿にも顔を出し、昔の山仲間と旧交を暖め、都度、頂上アタックにも挑戦中である。然し、健康上の問題で頂上に立てる山仲間が急減しつつあり、今後は単独行が増えそうである。



85歳で唐松岳単独登頂

5. 総括

世は正にデジタル万能の時代。我々ロートルには付いていくのがやっとの思いであるが、時にはスマホの電波の届かないアナログの世界に身を置き、精神的な安らぎを得るのも健康長寿の秘訣かも？

尚、登山継続の為の体力作りとして、美木良介主唱の“ロングブレス”を意識しながらのウォーキング(隔日約12千歩)や、年に2回は東松山市他の“ウォーキング大会20Kmの部”への参加等がある。次なる目標は卒寿に第3回目の富士登山であるが、さて？

著者プロフィール

- 1963年：大日本インキ化学工業(現DIC)入社
- 1974～1998年：米国他海外長期出張及び駐在
- 2002年：スペイン子会社工場建設P後同社退社
- 趣味：登山、囲碁、札所巡り、スマホ撮り写真

編集者注：会報冊子の「小室哲也氏」は「小室哲夫氏」でした。

『 I don't Noh(能) ! 』

加藤 清(昭 50 院精)

1. はじめに -無知の恥-



2012 年 2 月ポーランド出張先で現地の顧客と会食する機会があった。彼は日本の古典芸能に造詣が深く、能楽に関して数々の質問攻めにあった。私は日本人ながら能楽は無知蒙昧、まさに『 I don't Noh (能) ! 』。何一つ答えられず、恥辱を受ける塗炭の苦しみを味わった。



2012 年ポーランド現法販社にて (前列中央が筆者)

2. 能楽コトハジメ

この苦い経験から、一念発起、外国人にも説明できる程度の知識を身に付けようと、帰国早々に池袋の自由学園明日館での生涯講座「能楽コトハジメ」に飛び込んだ。講座は毎月 1 回夜間に行われ、観世流能楽師・小島英明氏が講師を務め、能の作品毎に、成立に関連した故事来歴や詞章の解説と名場面を仕舞演技披露するものである。全てが新鮮で目から鱗、大変有意義な講義であった。現在公演される能は約 250 曲あるが、4 年間の受講で、その約 45 曲の基礎知識を学んだ。



(講師の小島英明先生 2021 年小島能楽堂にて撮影)

3. 能(謡曲)の稽古

古典芸能は奥が深く知れば知るほど興味が湧いてき

て、能を自分で演じてみたくなった。水道橋の宝生能楽堂で少人数での謡稽古の会が開催されていると聞き、2016 年 1 月に入門、辰巳和磨氏ほか宝生流能楽師に師事した。67 歳で新たな船出を切った。稽古は毎月 2 回あり、師匠の発声を真似してオーム返しに音吐朗々と謡うもので、七五調の調べの余韻も心地良い。宝生流の特殊な謡い方を丁寧に教えて戴き、これまでに「巴」「羽衣」「舟弁慶」など 16 曲を稽古し、年 2 回能楽堂本舞台で稽古の成果を発表した。「100 回の稽古より 1 回の舞台」の諺があるが、足袋に履き替え舞台上がると、自然と背筋が伸び、身心ともに凜となり自信も付く。面壁九年、やっと謡稽古も板に付きつつある。



2019 年謡稽古発表会懇親会 (前列中央が辰巳和磨先生)

4. 結びに -国際化時代に思う-

能楽は室町時代に観阿弥・世阿弥によって大成され、650 年間一度も断絶することなく上演され続けている。世界的にも稀有な文化的価値が評価され 2008 年に日本初のユネスコ無形文化財に認定された。以来、能学堂で公演を鑑賞する外国人の数は年々増え、今や「全世界の人々の為の能楽」までに昇華した。

近年、我が国も否応なしに国際化時代に突入した。前述の教訓から、円滑な国際事業を展開する上で、海外の人々に日本の文化・伝統・慣習等をきちんと伝えることも大切であると痛感している。茨大工学部の学生や卒業生には、リベラルアーツの勉学やリカレント教育に勤しみ、工学専門一辺倒にならず幅広い人格形成を培うことを庶幾する。

著者プロフィール

- ・1975 年：日立工機(株)入社
- ・2010 年：同社 代表取締役社長
- ・2017 年：茨大工学部アドバイザーボード
- ・趣味：里山歩き、謡曲、観劇、美術・音楽鑑賞

核融合用超伝導マグネットの開発

吉田 清 (昭 52 学 子)

1. はじめに



卒業後、日本原子力研究所に
1977 年に入所して以来、2021 年
まで超伝導マグネットの開発に従
事してまいりました。最近では
ITER や JT-60SA 用のマグネット

の開発を担当してきました。そんな中で行われた研究
開発は、常に国際協力で実施されてきましたので、そ
の状況を説明させていただきます。

2. 超伝導マグネット開発

学部で原研に入り、超伝導グループに配属されて、
室長の指示のまま、実験装置の準備のために、12kA の
直流電源や 10 トンの極低温引張試験装置を準備して、
超伝導導体の性能試験に協力していました。同時に、
日本国内計画であるクラスター試験装置の電源や計測
装置を準備しました。1978 年に米国オークリッジ研究
所(ORNL)にて、米国、ドイツ、スイス、日本の 4 か国
で大型コイル(LCT)計画が、ほぼ同時進行で実施され、
ほぼ電気屋としての多忙な仕事でした。

LCT 計画では、国内でコイルを製作試験後に、オー
クリッジ研究所(ORNL)に搬入し、試験装置に組込み
作業、そして 3 コイル試験(1982-1984 年)を担当した。
ORNL の超伝導導体の開発の研究者との議論で、超伝
導固有の特徴と課題を教わったりしました。現在、
ITER や JT-60SA で使用しているバンドル型超伝導導
体の基本原理を学びました。一方、試験装置で発生し
たヘリウム漏洩については、日本側の技術で ORNL を
助勢して解決し、励磁試験の成功に協力できた。

帰国後、少し時間が取れるようになったので、導
体のクエンチ試験や、構造材の特性評価の試験を実施し
研究活動を始めることができた。さらに、1985 年から、
日本のポロイダルコイルの開発(DPC)計画が開始され、
LCT 国内試験装置をポロイダルコイル用に改造をし
た。DPC 計画でも、米国 MIT の試験コイルの試験が
国際協力で開始された。MIT の専門家たちとマグネッ
ト技術に関する議論ができた。

3. ITER

現在フランスで組立が進んでいる ITER は、1988-
1990 年にドイツのガルヒンにある Max Planck プラズ
マ研究所で概念設計活動が実施され、主にプラズマと

マグネットの仕様について、各国と協力して、多くの
提案を集め報告した。1992-2001 年に実施された ITER
詳細設計活動のマグネット設計は、主に日本で開催さ
れた。ここでは、導体やマグネット設計案を統一して、
具体的な評価用モデルコイルの案を設計し提案した。
モデルコイルの製作は各国で行い、コイルの動作試験
を日本とドイツが実施した。2000 年に、パルス用超伝
導マグネットの励磁の成功を得て ITER 建設の方針が
決定された。その後、政府間協議に時間を要したが、
2007 年に ITER サイトがフランスに決定し、各国で実
機の製作が開始された。

4. JT-60SA

JT-60SA は ITER プラズマ物理の補間装置で、ITER
が EU になったため、補間装置は日本の JT-60SA に決
定した。2007 年から設計が開始され、2009 年から製
作を開始した。設計解析のツールや方法も ITER で実
績があったので、詳細設計が短期間で完了できた。導
体やマグネットの製作技術も ITER で開発された技術
をそのまま使って、多くの R&D を省略できた。JT-
60SA は 2020 年には組立完了し試運転を開始したが、
2021 年にマグネットの絶縁不良が見つかり、修理して
2023 年 10 月にプラズマが点火できた。ここでも、国
際協力によって、EU と日本間で実験データや、解析
のノウハウを共有できた。

5. まとめ

核融合炉用の超伝導マグネットの技術開発の初期段
階から参加し、ITER の完成はまだであるが、JT-60SA
のマグネットの動作が確認できた。核融合用超伝導マ
グネットが、このようにうまく国際協力できた理由は、
ITER 協定にあるように、核融合炉開発は、広く人類の
ために行っているため、特許を公開し無償実施できる
ようにしたためである。不明な点は、教えたり、教わ
ったりが普通に行われ、論文に使った生のデータや、
図面や写真を共有して、無駄なく技術開発が進めるこ
とができたためである。プラズマからの高い要求性能
の中で、超伝導マグネットは、確実に動作する信頼性
と、妥当なコストであることが要求されている点は、
ITER の次の原型炉でも同様である。

著者プロフィール

- ・ 1977 年：日本原子力研究所入所
- ・ 1992 年：横浜国立大学 工学博士
- ・ 趣味：自転車乗り、プログラミング、論文読み

AIと茨城大学

田中 秀樹（平9院博物）

1. はじめに/昨今のAI事情



大規模言語モデルという言葉をご存知でしょうか？ChatGPTというサービスの基礎となるAI技術の総称です。

私は、東京渋谷にて、AI技術を開発する「エルブズ」という社名のベンチャーを運営しています。最初に就職したのが株式会社NTTデータという会社だったこともあり、今も、NTTデータグループの皆様と当社で、大規模言語モデルへの取り組みをしています。

このようなチャレンジができていのも茨城大学の頃の経験が基礎になっていると感じることが多いので、そのことを皆様にお伝えしたいと思います。

2. 私の略歴

私は、平成六年に茨城大学大学院 物質工学 修士課程を修了しました。その後、株式会社NTTデータに入社、技術開発本部というところで研究職につきました。NTTデータでは、茨城大学と共同研究を行うことができ、その中で、博士（工学）を取得することができました。

博士号を取得してからは、国立情報学研究所や東京大学で教員や研究員をしたり、さまざまな大企業と新規事業を興したりしてきました。現在経営している「エルブズ」も、とある一部上場企業とともに起業したものです。

3. 学生時代の取組み

アカデミアの世界においては、博士号はパスポートのようなものです。特に海外では、博士号をもっていることで、研究者として扱っていただける側面があります。私が、国立情報学研究所や東京大学などで、活動できたのは、茨城大学で学び、博士号をいただいたからと言って過言ではありません。

研究分野についても、私の場合には、学部頃から、コンピュータシミュレーションに取り組ませていただいたため、ソフトウェア工学への道を切り開くことができました。当時は、インターネットもありませんし、Windows もありませんでした。修士になり、出始めの

TCP/IP で計算機センターにジョブを投入したり、Windows で動作する WordPerfect という米国で流行していたワープロソフトで修論を書いたり、かなり最先端の活動に取り組ませていただいたことが、今の私の仕事につながっていることは間違いありません。

4. これからの茨城大学

インターネットが世界を変えたように、AIは、世界を変えていく勢いです。おそらく社会全体が良い方向に行くことになるかと思えます。AIが当たり前の世界で、茨城大学が、どのような立ち位置になるのか、世界基準でその存在意義が問われることになるだろうと考えています。それはとても難しい問題です。一時、国立大学教員をしていたものですから、なおのこと難しさを実感しています。

私は、卒業生と教員・在校生が今一度、直接つながり、力を合わせ、新しい未来・新しい茨城大学をつくることであろうと考えています。

日立市という地にいる先輩もいますでしょうし、大企業に勤める先輩方もいらっしゃるものと思います。それ以外にも、私のように東京のど真ん中でAIのベンチャーを運営している卒業生もいるのです。当社には、アルバイトやインターンシップで、名古屋大学や京都工芸繊維大学、はこだて未来大学などの学生の皆さんが活動しています。テレワークなので、地域は関係ないのです。

卒業生と教員や学生の方と繋がり、AIをはじめとした新しい技術開発で未来をつくること、それが茨城大学の新しい姿になってほしいと日々願っています。

5. 終わりに

この記事をご覧になり、少しでもご興味がありましたら、検索エンジンで「エルブズ」と検索してみてください。茨城大学を誇り思い、必死にもがいている私の活動をご覧いただければと思います。

エルブズという器で、諸先輩方、教員・学生の皆様とご一緒できる日を夢見しています。

著者プロフィール

平成六年：(株)NTTデータ入社

その後、国立情報学研究所・東京大学・インプレス・グリーなどを経て、株式会社エルブズを創業

就職して 15 年を振り返って

西脇 一樹 (平 21 学都シ)

1. はじめまして



平成 21 年に都市システム工学科を卒業しました、西脇と申します。この度は、多賀工業会東京支部の会報に執筆の機会を与えて頂き、誠にありがとうございます。大学を卒業して、『大成建設』に就職して 15 年目になり、せっか

くの機会ですので自分の経歴をまとめて、ご紹介をさせて頂きたいと思ひます。

2. 現場配属時代

1 つ目の現場は、秋田県で高速道路の山岳トンネルの現場です。NATM 工法による施工でした。(NATM 工法についての説明は省略します。) この現場では、これからの社会人として生きていくための心得と学生生活の机上の勉強では学ぶことが出来ない、まさに実務に必要な土木工学を学びました。



写真 1 施工状況の一例

2 つめの現場は、宮城県で高速道路の橋梁上下部工・土工の現場です。この現場は、工事区間約 5 km と長く、現場を管理することの難しさを学びました。



写真 2 基礎杭施工状況

3 つ目の現場は、東京都で高速道路の現場です。この現場は、供用中の高速道路の脇で施工するので、第三者に対する気遣い・心遣いの大切さを学びました。

4 つ目の現場は、大阪府で高速道路の橋梁上下部工・土工の現場です。この現場では、大規模な橋梁上下部工工事で、大現場を担当する大変さを学びました。

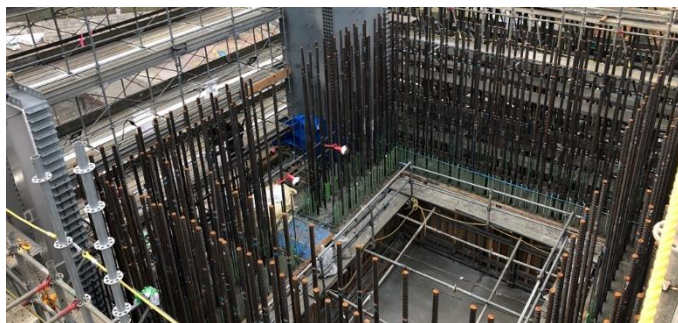


写真 3 柱頭部施工状況

以上、12 年間で 4 回の現場転勤を経験しました。振り返ってみて、意外に多くの地域に行ったなあと実感しています。地域ごとの観光名所に行ったり、ご当地食材を食べたりできる楽しさがあったため転勤も悪くなかったと感じております。転勤に伴って、上司部下も変わるのも良かったかもしれません。。

3. 営業配属時代

私の営業担当エリアは、東京都・山梨県・茨城県です。大学生活で育った茨城県で再び仕事をできることを大変うれしく思っております。営業になってまだ 2 年目ですが、少しでも茨城県に建設会社の一員としてインフラ整備に貢献できればと思っております。技術者としても営業マンとしてもまだまだ未熟ですが、何卒ご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。

4. さいごに

去年から多賀工業会東京支部の幹事をお引き受けし、今年初めて東京支部の同窓の集いに参加しました。同窓の集いでは、大学時代の同級生や先輩に声掛けして、3 名参加してくれました。忙しい中参加してくれてありがとう！来年は、初参加者がさらに増えることを願っております。ぜひとも皆様ご参加のほどご検討をお願い致します。

著者プロフィール

- ・平成 19 年：長岡高専 環境都市工学科卒業
- ・平成 21 年：茨城大学 都市システム工学科卒業
- ・平成 21 年：大成建設(株)入社

囲碁部

部長 田中 栄太郎 (昭 40 学化)

現在、会員の登録者は、昭和 31 年卒の先輩から 46 年卒の方々までの 19 名で、棋力は八段から 5 級までいろいろです。

大会は年に 4 回で、2 月・5 月・11 月の第 2 土曜日と 8 月の第 1 土曜日に日本棋院市ヶ谷会場（市ヶ谷駅から徒歩 2 分）で行います。

本大会には東京都をはじめ埼玉県、千葉県および神奈川県各地から遠路はるばる参加される方がおられます。また埼玉支部囲碁部との交流もあり、囲碁を通じての親睦を深めています。

囲碁に関心のある方は卒業年代にかかわらず多数の参加者を歓迎します。

大会では、初回の棋力は申告制で、ハンディ制を採用して段級位にかかわらず勝つチャンスがあるような運営システムでやっています。成績次第で段級位が昇降します。大会結果は準スイス方式でこない、成績優秀者は表彰されます。

大会終了後、会場近くで希望者による簡単な懇親会をおこなっています。

連絡窓口

田中 栄太郎 (Tel: 0466-82-4988)

(Email: fetanaka@amail.plala.or.jp)

山田 恵規 (昭 42 学電) (Tel: 042-646-8285)

西暦 2023 年度の大会入賞者は以下のとおりです。

大会	開催日	優勝	準優勝	三位	四位	五位	参加者
8 4	2023 02-11	山田六段 (電 42)	上田四段 (電 37)	真下八段 (機 36)	小室六段 (金 36)	藤沼五段 (機 43)	13 名
8 5	2023 05-13	小室六段 (金 36)	藤沼五段 (機 43)	佐々木四段 (電 38)	山崎 4 級 (原 31)	飯村三段 (電 36)	16 名
8 6	2023 08-05	佐々木四段 (電 38)	酒井五段 (金 44)	真下八段 (機 36)	飯村三段 (電 36)	山田六段 (電 42)	14 名
8 7	2023 11-11	真下八段 (機 36)	藤沼五段 (機 43)	酒井五段 (金 44)	寺内五段 (電 38)	白石二段 (化 38)	13 名



第 87 回囲碁大会参加者

ゴルフ部



部長 佐藤将彦 (昭43 学子)

令和5年度活動報告と令和6年度活動計画は次の通りです(氏名は敬称略及び、卒年の「昭」省略)。部名は通称「多賀いちよう会」と銘打ってやってきており、支部HPにも開催案内、報告など随時記載しています。

・競技方法：新ペリア方式。但し、今回から、80歳以上はフロントティ打を可としました。



1. 令和5年度第49回春季3支部合同コンペ

(幹事は埼玉支部)

- ・開催日：2023年3月10日(金)
- ・場所：リバーサイドフェニックス GC (埼玉県)
- ・参加者：12名(内、埼玉支部7名、千葉県支部3名、東京支部は、小澤喜宏(53 学子)、佐藤の2名。)
- ・優勝：森氏(埼玉)、2位：小澤氏(東京)、3位：富田氏(千葉県)と3支部に仲良くばらけました。当支部初参加小澤氏は実力をいかになく発揮して、実質優勝スコアでしたが初参加でということで2位。佐藤は10位(しかし、DC獲得と奮闘)でした。
- ・競技方法：埼玉支部持ちハンディ、新ペリア方式(初参加者)。



(左側が初参加の小澤氏、なお定番の集合写真は、千葉県支部が朝の交通トラブルで間に合わずに撮れず、その後も撮り忘れて無し)

3. 令和5年度第51回 年末3支部合同コンペ

(幹事 千葉県支部)

- ・開催日：令和5年12月8日(金)
- ・場所：紫カントリークラブあやめコース
- ・参加者：14名(内、埼玉支部6名、千葉県支部4名、東京支部は、青野、初参加の小椋隆典(51 学金)、小澤、佐藤の4名。)
- ・優勝：青野氏(東京)、2位：細井氏(千葉県)、3位：高橋(埼玉)。初参加の小椋氏はグロス88(グロス2位)なるも、新ペリヤハンディに恵まれず10位、有望会員!
- ・競技方法：新ペリア方式(80歳以上フロントティ打可)。



2. 令和5年度第50回記念秋季3支部合同

コンペ

(幹事 東京支部)

- ・開催日：令和5年9月26日(金)
- ・場所：紫カントリークラブあやめコース
- ・参加者：15名(内、埼玉支部6名、千葉県支部3名、東京支部6名)。東京支部参加者は、小林一(38 学機)、富田瑞穂(41 学機)、青野潔(41 学化)、小澤、初参加の西脇一樹(平21 学都市)、佐藤で久しぶりに6名の多さ!
- ・優勝：小澤氏、2位：青野氏、3位：小林一氏と東京勢が独占、記念大会を飾りました。初参加の超若手、西脇氏はBBに終わりました。又、参加者全員に記念賞(当支部オリジナルのクリップ&マーカ(「ゴルフ部」横の写真)を贈呈。

4. 令和6年度計画

(1) 第52回春の3支部合同コンペ

- ・開催日：3月29日(金)(幹事 埼玉支部)
- ・場所：坂東CC

(2) 第53回秋の3支部合同コンペ

- ・開催日：9/下~10/上(幹事 東京支部)
- ・場所：紫カントリークラブあやめコース

(3) 第54回年末3支部合同コンペ

- ・開催日：11月中下旬(幹事 千葉県支部)
- ・場所：未定

入会受付中、コンペのスポット参加大歓迎!

連絡窓口 部長：佐藤将彦 090-8819-7305

(新任) 副部長：小澤喜宏 090-1999-9301

写真部

部長 小林 渡 (昭38学電)

多賀いちょう写真部は初夏の撮影会、冬の撮影会を実施、東京支部、埼玉支部写真展、こうがく祭「写真・絵画展」に出展しました。

また外部活動は主として埼玉、神奈川の全日写連等の各種コンテスト、写真展に積極的に参加相応の実績を上げております。第68回(2023)全神奈川写真サロン公募展、最優秀賞を受賞しました。以下報告します。

1. 初夏の撮影会

5月26日(金)「下町の風情と日本の伝統文化を体験できる街、根津、千駄木」と題した撮影会を実施しました。8名参加(ゲスト3名)。

夏目漱石や森鷗外、高村光太郎が居を構えた千駄木、アメリカ福音派系の礼拝堂として建てられた根津教会、国の重要文化財に指定された根津神社、明治の文豪が愛した懐かしい下町風景をゆっくり散策しました。中でも千駄木、指人形笑吉、あめ細工吉原大変興味深く見学、撮影しました。



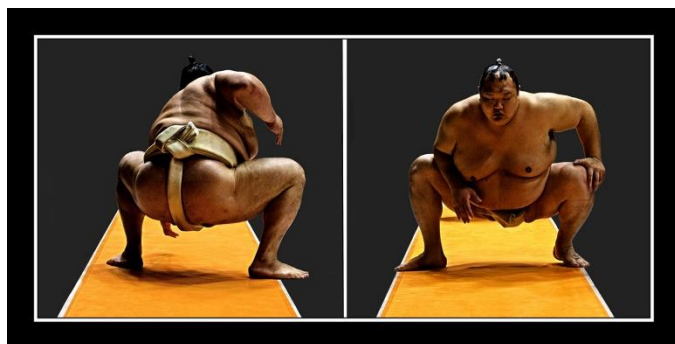
<参加者 根津教会>

2. こうがく祭

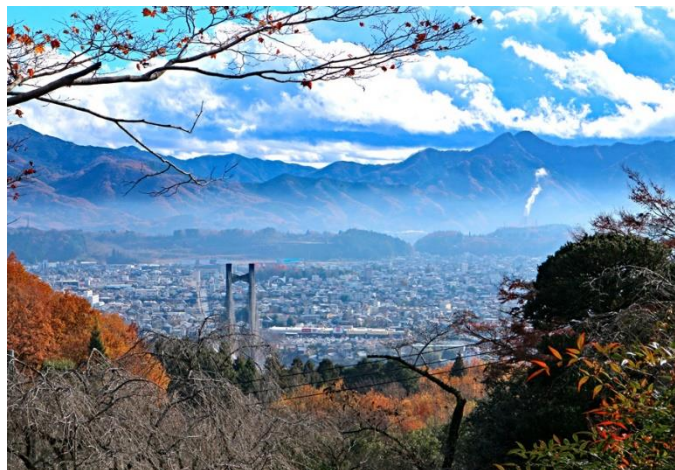
11月4日(土)実施しました。多賀工業会本部「写真・絵画展」開催しました。東京写真部6名、10点出展、抜粋して4点掲載します。



<蔵の街 山崎 慎一郎 (昭31学原) >



<摺り足稽古 小林 渡 (昭38学電) >



<秩父山系 田中 栄太郎 (昭40学化) >

テニス部

部長 村上 宗久 (昭 48 学機)

2023 年度に入りコロナ禍が徐々ではあるが収まる傾向にあることより部活動を開始することにしました。

●2023 年度の活動実績

1. 2023 年 5 月 23 日：春季練習会 (小金井公園)

当日は朝からあいにくの朝だった為、練習会は中止にして、練習後に予定していた懇親会を実施しました。場所：吉祥寺参加者：5名



2. 2023 年 11 月中旬：茨城大学テニス部

OB・現役交流会

(茨城大学水戸キャンパス)

例年、水戸キャンパスで実施される茨苑祭に合わせて OBOG・現役対抗戦を行ってきたが、学生側の都合により不開催となりました。

3. 2023 年 11 月 28 日：秋季練習会

(小金井公園)

当日は東京都下にある小金井公園のテニスコートを借り、部員による練習会を実施。練習会には 6 名が参加しランダムに組み合わせし対戦相手を決め 4 ゲームの試合を数試合行いました。



練習会后、吉祥寺へ移動し懇親会を行いました。懇親会からの参加者二名



4. その他の活動

部員は居住している地域などでテニスを楽しんでいます。中でも S36 年卒の森永隆宏さんと小室哲夫さんが伝統ある毎日選手権の第 101 回大会に出場されました。森永さんが 3 回戦まで、森永・小室組が 2 回戦まで勝ち上がりました。

●2024 年度の活動計画

2024 年度は下記の開催を予定しています。

1. 2024 年 5 月下旬：春季練習会

(小金井公園)

2. 2024 年 11 月中旬：茨城大学テニス部

OB・現役交流会

(茨城大学水戸キャンパス)

3. 2024 年 11 月下旬：秋季練習会

(小金井公園)

●入会受付中！ 練習会参加大歓迎します。

連絡窓口

部長：村上宗久 m-murakami@hi-ho.ne.jp

副部長：山本 蕃 qq7b2e3d@eco.ocn.ne.jp

多賀工業会東京支部会則

(令和2年7月18日改訂)

第1章 総則

第1条 本会は、多賀工業会東京支部と称し、その支部事務所を支部長宅に置く。但し、会計に関する事項については、支部事務所を会計幹事宅に置くことができる。

第2条 本会は、会員相互の親睦を図り、合わせて母校の隆昌に寄与することを目的とする。

第2章 事業

第3条 本会は、第2条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 会報の発行
- (2) 会員名簿の整備・管理
- (3) 会員相互の連絡及び共励共助
- (4) 会員と母校との連絡
- (5) 発展向上のための講演会、研修会
- (6) 同好会活動
- (7) その他目的達成のための必要と認める事項

第3章 会員

第4条 本会の会員は、多賀工業会の会員で東京・神奈川及び近隣に在住・在勤している者、並びに支部長が特別に承認した者とする。

第4章 役員

第5条 本会は次の役員を置く。

支部長 1名、 副支部長 若干名
幹事長 1名、 幹事 若干名
会計幹事 1名、 会計監事 2名
会報編集室長 1名、 ホームページ編集室長 1名
名簿編纂室長 1名

同好会会長又は部長 各1名、 顧問 若干名

第6条 役員は、次の方法によって定める。

支部長は、幹事会の互選とし総会での承認を得るものとする。支部長以外は、支部長が推薦し、幹事会の承認を得て支部長が委託するものとする。但し、同好会の会長又は部長は同好会会員の互選によるものとする。

第7条 役員職務は、次の通りである。

支部長 本会を代表し、会の運営・会務執行の責めに任ずる。

副支部長 支部長を補佐し、支部長が職務不能な時はその責務を代行する。

幹事長 幹事の業務を統括し、その運営にあたる。

幹事 会務に必要な事項を審議し決定する。

会計幹事 本会の収支、及び会計を担当する。

会計監事 会計を監査し総会で報告する。

会報編集室長・ホームページ編集室長・名簿編纂室長 各担当業務を執行する。

同好会幹事 同好会会長又は部長。その会を代表し自主的に会務を執行する。

顧問 支部長・幹事会の諮問に応ずる。

第8条 役員任期は2年とし、重任を妨げない。

第5章 会議

第9条 支部総会は、原則として毎年1回開催する、但し、必要に応じて臨時支部総会を開くことができる。

第10条 支部総会は、次の事項について審議し、出席過半数の賛成で決議する。または、書面にて採決を行う書面議決で、書面表決書のうち、過半数の賛成で決議する。

- (1) 支部長人事
- (2) 会則の改廃
- (3) 本会の年度決算並びに次年度予算
- (4) 本会の年度事業報告並びに次年度計画
- (5) 幹事会からの提出議案
- (6) その他本会の目的を達成するに必要な事項

第11条 幹事会は、幹事をもって構成し原則として年2回(2, 11月の第4土曜日)開催する。但し、必要に応じ支部長又は幹事長が日程変更、並びに臨時に招集し幹事会を開催できる。

第12条 幹事会は、次の事項について審議し、出席者の3分の2以上の賛成で決議事項とする。

- (1) 支部長の互選及びその他役員決定
- (2) 会則の改廃案
- (3) 本会の年度決算案並びに次年度予算案
- (4) 本会の年度事業報告並びに次年度計画案
- (5) 総会への提出議案
- (6) 細則規定の改廃
- (7) その他会務運営上必要な事項

第6章 会計

第13条 本会の経費は、会員の年会費、寄付金及び本部補助金をもってあてる。

第14条 現金の保管は銀行預金の方法による。

第15条 本会の会計年度は、1月1日から翌年の12月31日までとする。

第16条 本会の収支は、会計担当幹事が担当し、会計監事が会計監査を行い総会に報告する。または、事前に書面などで告知されている場合は、報告を省略できる。

付則 本会則は、平成16年10月23日より施行する。平成30年7月14日に第5章第11条を変更した。令和2年7月18日に第10条、第16条を変更した。

細則規定

第1条 年会費は、2,000円とし、会計年度内に徴収する。複数年度分の先行納入は拒まない。

- (1) 但し、一旦納入の会費は返還しない。
- (2) 会計幹事は年会費の銀行預金口座、郵貯振込口座の管理をおこなう。

第2条 会報は次の者に配布する。

- (1) 年会費納入者。(但し、5年連続未納者には以降配布を停止することが出来る。)
- (2) 支部総会参加者
- (3) 東京・神奈川に在住・在勤の直近3年間の卒業生
- (4) 配布希望者で支部長が許可した者
- (5) その他多賀工業会本部及び支部などの関係者

第3条 総会開催の案内は、会報に発表するとともに書面で通知する。書面による通知は、第2条の対象者以外にも広げて発送する。

第4条 慶弔規定は別途定める。

第5条 80歳到達の役員経験者に記念品を贈呈することが出来る。

第6条 幹事会に事務局を置き、幹事会の取りまとめを行う。

第7条 幹事長には副幹事長、会報編集室長・ホームページ編集室長・名簿編纂室長には副室長をおき職務を補佐する。

第8条 各同好会には副会長又は副部長を置き、会長又は部長を補佐する。

第9条 本規定の改廃は、幹事会にて行う。

本細則は平成16年10月23日より施行する。

平成23年8月27日に第1条(2)追加、第2条

(1)修正、第6条を追加した。旧第6条は第7条とした。

平成27年2月に細則の第2、6、7条を修正した。

平成27年9月に細則の第8条を追加し、旧第8条は第9条とした。

HP 編集室より

HP 編集室長 張 立業(平 24 院情)

去年の同窓会において、私は大学の同窓会のホームページ編集室長としてお話をさせていただきました。この一年間、多くの方々からのご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年度も引き続き、同窓会のホームページをより充実させ、皆様にとって有益で魅力的な情報を提供してまいります。先輩方から引き継いだ貴重なノウハウを生かし、前年度の成功体験から学び、新たなアイデアを取り入れて、より使いやすく魅力的なウェブサイトを構築することが私たちの目標です。

また、同窓会のホームページ編集室では新たなメンバーを募集しております。同窓生の中で技術に興味をお持ちの方やウェブデザインに携わりたい方、または単に同窓会の運営に貢献したいと考える方は、ぜひお気軽にご応募ください。私たちは新しい仲間

を迎え入れ、共に力を合わせて同窓会のホームページを更に発展させていくことを期待しております。

幹事長である佐藤様には、引き続きご指導いただき、助言を仰ぎながら同窓会の発展に寄与していく所存でございます。私自身はシステムの設計や開発に関する知識と経験を活かし、最新の技術を取り入れつつ、皆様が楽しんでご利用いただけるホームページを提供してまいります。同窓会に参加される方々が学生時代の思い出を振り返り、新たな出会いや交流を楽しむために、私たちは心を込めて作業しています。

この素晴らしい同窓会の一員として、私たちは皆様にとって有意義な場を提供することができるよう、日々努力してまいります。新メンバーも含め、引き続き、ご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

URL : <http://tokyo.tagakgk.com/>

編集後記

会報編集室長 小澤 喜宏(昭 53 学子)

今年も、随筆寄稿者の皆様から素晴らしい原稿が、また写真部からは表紙を飾る写真が届きました。感謝申し上げます。今号には、昨年から復活した「同窓の集い」の報告やその写真集を掲載できるようになり、ここ数年の 24 ページをどう埋めようかという悩みが解消され大変助かりました。

「同窓の集い」での杉田会長の講演で、有名なファイル共有ソフト「Winny」の作成者が茨大工学部卒業生で、その映画が作られたとお聞きし、早速、WOWOW で映画「Winny」を録画し観てみました。

著作権法違反幫助の疑いで告発された開発者の金子勇さんと弁護士が 7 年かけ最高裁まで戦い無罪を勝ち取る内容です。ナイフを使った殺人が起き、そのナイフを作った職人が罪には問われないのと同じく、「Winny」の作成自体は罪にはならないと司法判断され、これからの若い技術者が画期的なソフトウェアを躊躇なく開発できるようになりました。

一方、日本は法治国家とはいえ、裁判のために天オ

プログラマー金子勇さんの開発者としての 7 年間は権力によって奪われました。それだけでも莫大な損失だった上に、裁判終了後 1 年半で金子さんは急性心筋梗塞で亡くなりました。大変重い内容で社会へのメッセージが込められた映画でした。

さて、私事ですが、この会報の編集作業が終了すると、我が家の田植えの準備が始まります。親から譲られた田んぼで、もっぱら里山の景観維持と自らの心身の健康維持のために汗を流しています。秋には下の写真のような実りを迎えます。



多賀工業会東京支部会報 【第 27 号】

発行 2024 年 5 月 1 日

発行者 支部長 佐藤 将彦

〒193-0804 八王子市清川町 4-8

TEL 090-8819-7305

編集室員

小林 渡 (昭 38 学電) 小澤 喜宏 (昭 53 学子)

加藤 邦治 (昭 53 学子) 大西 孝明 (昭 62 学情)

2023(令和5)年度 年会費納入者

(敬称略、順不同)

2024(令和6)年1月以降の納入分は、次年度の掲載となります。

氏名の後の○は本年度以降納入、又は既納分(前納)を、氏名の前の□は以前分納入(後納)を示し、中の数字はその年数を示します。

会費ご納入ありがとうございました。納入された方で記載漏れや間違いがありましたらご寛恕のうえ、ご連絡をお願いいたします。

また、これまでの未納分も受け付けています(後納扱い)。

連絡先: 会計幹事 佐藤 将彦

Tel: 090-8819-7305

E-mail: mke-sato@mud.biglobe.ne.jp

昭17専金 坪能 進 ①	昭38学電 兼子 八郎 ⑤	昭41学化 斉藤 保夫	昭45学精 黒澤 郁雄	昭53学情 西部 俊憲
昭23専電 塩野 譲	昭38学電 後藤 紀夫	昭41学化 橋川 隆夫	昭46学電 飯塚 英一	昭53学情 高木 利之 ④
昭26専通 菊地 玲二 ①	昭38学電 小林 渡	昭41学化 矢島 勝司 ④	昭46学電 加藤 昌男	昭54院子 川村 澄
昭28学電 稲見 孝	昭38学電 坂野 栄	昭42学機 小森 廣樹	昭46学電 狩野 守	昭54学子 佐伯 豊
昭29学原 奥野 眞治	昭38学電 佐々木登喜夫④	昭42学電 粕谷 利夫 ①	昭46学子 大崎 孝明 ①	昭55院電 丸島 國義
昭30学機 檜山 邦良	昭38学電 寺内 賢一	昭42学電 山田 恵規	昭46学子 栗原 功幸	昭55学機 前田 博之
昭31学原 山崎 慎一郎	昭38学電 橋本 政巳 ⑧	昭42学精 下ノ村 勇	昭46学子 安田 健博	昭55学精 二方甲子夫①
昭31学電 大内 孝	昭38学金 海老原 雄二	昭42学精 山本 蕃	昭46学子 井村 豊	昭56院精 田中 克弘
昭31学電 藤川 俊明	昭38学化 大塚 進 ③	昭43学機 遠藤 義和 ①	昭46学金 大井川 勝雄	昭56学機 峰村 勝幸 ③
昭32学原 矢野 睦男 ①	昭38学化 小田倉勝夫	昭43学機 藤沼 隆夫	昭47学機 西岡 周二 ⑧	昭56学機 石川 良好
昭32学電 山下 正明	昭38学化 白石 道彦	昭43学子 佐藤 将彦	昭47学子 五十嵐喜良⑥	昭57学機 松本勝己
昭33学機 奥 康治	昭38学化 高木 二郎	昭43学子 鈴木 弘道 ③	昭47学精 小泉 幸範	昭57学子 氏家 共之
昭33学電 島田 直彦	昭38学化 矢部 功一	昭43学子 角田 勇	昭48院子 鈴木 幹夫 ③	昭57学金 若松 洋治
昭36学機 上月 秀俊 ④	昭38学精 磯部 亮	昭43学子 野崎 淳一 ⑨	昭48学機 宮城 緑郎	昭57学情 宮崎 早苗
昭36学機 真下 知行 ④	昭38学精 市村 敬司 ②	昭43学子 袴塚 邦彦 ②	昭48学機 村上 宗久 ④	昭58院子 土生 理
昭36学機 森永 隆宏	昭38学精 矢嶋 國男 ①	昭43学化 池上 毅	昭49学電 坂本 淳 ①	昭58学機 有路 博
昭36学機 横山 馨	昭39学電 塚本 文彦	昭43学精 斉藤 央道 ①	昭49学精 田川 孝二	昭58学子 照沼 幸一
昭36学電 飯村 卓郎 ①	昭39学金 入江 暢泰 ①	昭43学子 阿部 正志	昭50院精 加藤 清	昭59学精 有坂 建夫
昭36学電 小宅 仁 ①	昭39学金 横山 安行 ①	昭44学子 石川 久 ②	昭50院精 駒板 俊樹 ②	昭60学電 太田 悦子 ②
昭36学金 小室 哲夫	昭40学電 手塚 勇夫	昭44学子 常盤 浩央	昭50学子 松田 実 ⑥	昭60学電 田島 清至
昭37学機 栗橋 貞夫	昭40学電 山崎 輝行	昭44学子 野澤敏矩 ①	昭50学精 岸添 義彦 ③	昭62学化 鈴木 葉子 ④
昭37学電 佐藤 恭久	昭40学金 松本 二郎	昭44学子 吉田 真吾	昭51学子 仁平 孝 ②	平02学建 小粥 太郎
昭37学電 西川 正登 ①	昭40学化 田中 栄太郎	昭44学化 斉藤 昭 ①	昭51学精 秋山 雅俊 ⑤	平06院電・子 川村 敏雄 ②
昭38学機 河上 弘一	昭40学精 大泉 雅靖	昭44学精 菊地 政行	昭52院金 武藤 和望 ⑦	平06院金 田中 秀樹 ④
昭38学機 小林 一	昭40学精 寺 紘一 ③	昭44学精 山口 良治	昭52院金 渡辺 隆	平08院情工 山崎 真 ③
昭38学機 駒場 方耀	昭41学機 高橋 伸二	昭45学電 小滝 麟太郎	昭52学機 坂本 嗣彦	平08学電・子 生井澤伸秋①
昭38学機 桜井 衛	昭41学機 富田 瑞徳	昭45学電 永木 利夫 ④	昭52学子 池畑 隆	平09学都 藤井 貴弘 ②
昭38学機 丹下 宏	昭41学化 青野 潔	昭45学電 吉田 通廣	昭52学精 小笠原茂	平10学機 山本 夏江 ③
昭38学機 中村 好秀	昭41学化 岡本 實	昭45学子 藤枝 伸一 ①	昭53学子 小澤 喜宏	平21学都 西脇 一樹
昭38学電 遠藤 喜久男	昭41学化 小沼 淳志	昭45学精 伊藤 茂	昭53学子 加藤 邦治	平24院情 張 立業 ③
				平24学情 趙 亮

合計 151名

(前納者、後納者を含みます)

2023(令和5)年度ご寄付者

(敬称略、順不同、単位は円)

昭17専金 坪能 進	3,000	昭52学精 小笠原茂	8,000
昭36学機 上月 秀俊	8,000	昭55学精 二方甲子夫	1,000
昭40学精 大泉 雅靖	5,000	匿名希望(1名)	10,000
昭48院子 鈴木 幹夫	10,000	匿名希望(1名)	5,000

ご寄付ありがとうございました。

年会費納入のお願い!

皆様に納入して頂く年会費とご寄付が当支部の主な財源となっております。

◇ 『同窓の集い』に参加時、当日受付にて直接納入いただけます。

◇ その他の場合は、ご面倒でも同封の払込取扱票(*)にて、ゆうちょ銀行もしくは郵便局の窓口・ATMで、振込み納入をお願いします。

(なお、払込料金そのものは支部負担となっております)。

(*) ご寄付の場合もこの用紙をお使いください。

私たちはAI技術で 社会課題解決する会社です

私たちエルブズはAI技術で社会課題解決を目指して設立しました。
特に対話技術について研究・開発・事業化に果敢に取り組んでいます。



代表取締役社長 田中 秀樹

茨城大学工学研究科 物質工学専攻 博士(工学)。NTTデータ在職中シリコンバレーにてWebシステム開発のち起業。大学で教鞭をとりつつ、起業家として経験を重ね、2016年2月エルブズ創業。



取締役 西部 俊憲

茨城大学情報工学科卒。NTTデータ 技術開発本部にて、ソフトウェア開発に関わる広範な研究を実施。NTTデータ西日本センター長を経て、NTTデータ COEシステム本部立上げに参画。主として実務業務に従事。NTTデータMSE、NTTデータビジネスシステムズ取締役を歴任。

 株式会社エルブズ 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目9番8号

TEL : 03-6805-1955 FAX : 03-6740-2205
HP : <https://elvez.co.jp> MAIL : info@elvez.co.jp



ワイヤハーネス設計・製作

顧客の信頼を得て57年

有限会社 いすず電機工業所

営業品目：少量多品種対応可

- ◇ワイヤハーネス設計・製作
- ◇各種ケーブル加工
- ◇組立配線

本社 日上市東金沢町4丁目-12-7

TEL 0294-36-6835

FAX 0294-35-2505

ホームページ <https://www.isuzudenki.com/>

代表取締役 小宅 仁 (昭36学電卒)



私たち大協印刷は、

印刷に関わるあらゆるサービスをご提案しております。

ぜひ一度ご相談ください。



大協印刷株式会社

〒110-0016 東京都台東区台東2-4-14
TEL: 03-3837-5291 / FAX: 03-3837-5293 E-mail: info@daikyo-print.co.jp

<http://www.daikyo-print.co.jp>

